

令和6年度 青森県総合社会教育センター運営協議会 議事録（要旨）

1 日 時

令和6年7月23日（火）10時00分～12時00分

2 場 所

青森県総合社会教育センター4階 第2教材開発室

3 議 題

(1) 令和6年度事業計画について

(2) 主な事業の取組内容について

- ① パワフルAOMORI！創造塾
- ② 大学生とカタル！キャリア形成サポート事業
- ③ 地域の今と未来をつなぐキャリア教育推進事業
- ④ あおもり家庭教育力向上事業
- ⑤ あおもり県民カレッジ運営事業（指定管理者）

(3) その他

4 出席者

〔委員〕（敬称略）

小山田委員、秋田委員、菊地委員、高橋委員、木村委員、大西委員、沼田委員、五十嵐委員、近藤委員、金澤委員、工藤委員

〔県総合社会教育センター〕

白戸所長、今泉副所長、槻ノ木沢総務課長、副田育成研修課長、高館社会教育主事、六角指導主事、佐藤教育活動支援課長、佐々木教育活動支援課副課長、津嶋指導主事、高橋社会教育主事

〔学び・生かすあおもりグループ（指定管理者）〕

渡部事務局長

5 議事録

《案件（1）、（2）①②について》

【委員】

パワフル AOMORI！創造塾（以下「パワフル」という。）の卒塾生としての意見ということで、卒塾して2年経ったが、卒塾生の方々や関係する方々と話をしていて、社会人になってから何かを学ぶ、地域の方と繋がるということは意外と少ない。パワフルは、それを打破する一つの入口になっているということが話題になっていたので、引き続き試行錯誤しながらチャレンジし、継続していただきたい。自分の経験だが、このパワフルでいろんな方と出会いがあって、いい経験をさせていただいた。

【委員】

わが町は、年々人口が減少している過疎の町だが、その中でも地域を担う人財というのは育ってきていると感じている。ひとりの方は、お父さんがスーパーマーケットを経営されていたが、町に大型スーパーが進出し、経営が難しくなったところ、娘さんが別な形でスーパーを活用したいということで、売り場面積を縮小し、お母さんと外ヶ浜町ならではの商品開発、地域でコーヒーを販売しておられる方と憩いのスペースといいますかコーヒーを飲みながら、あるいは、本を読みながらゆっくりと過ごす、そういうスペースを作っており、時にはイベントのようなこともやっている。もうひとりの方は、お父さんの畑を譲り受けて新しく農業経営者になった方で、例えば自分の畑にどんな作物が適しているか種苗業者と連携しながら、あるいは、県内外の若い農業経営者の方々ネットワークを結んでいろんな情報を得ながら、時には研修で学んできたことにチャレンジしながら経営に取り組んでいる。パワフルに参加するためには熱量も必要だと思うので、いろんな方が参加してくれば良いと思う。

【委員】

パワフルでも事例発表してほしいほどのすごい活躍している方なので、人財リストに登録して欲しいと思う。

【委員】

パワフルの方ですが、実際にコースを分けたことによって参加人数や変化について伺いたい。

【事務局】

ベーシックコースが8名、アクティブコースが4名。今年度は地域おこし協力隊で活動している方も、更にブラッシュアップするという意味でアクティブコースにも、ベーシックコースにも2名参加している。

【委員】

大学生とカタルキャリア教育事業で、実際に社会人としての実践力について具体的にイメージされていることをお聞きしたい。

【事務局】

社会人としての実践力というところで、例えば先程お話しした書類でのやり取り、あいさつ、話し方といった所を少しずつでも研修なりワークショップなりを通じて、向上する事ができれば良いと考えている。

【委員】

イメージとして実践力の中でも特にマナー的なところに力を入れる感じか。

【事務局】

そういう所も含めて進めていく中で、気付くところなどもあり、昨年度から気になるところはあったが、わかりやすいところとすればそのような所である。

【委員】

実際これに参加しようかどうかどうしようかと思っている学生が、例えばこれに参加することによって自分のどこが強みとして見つけられるか、また自分にはない経験として、この経験を通してどういった力を身につけられるかといったある程度の見通しが付けられると、参加してみようと思う学生がもっと増えるのではと思った。

【委員】

パワフルを受講した友人が、これからどうしたらいいかという所の気持ちが整理でき、思いは形にすることができ、受講生と交流することですごく刺激を受けたが、コロナの影響でその後の継続ができなくなったこともあり、残念だったということ話を話していた。今もメンバーがグループラインで交流をしており、学んだことを継続していきたい気持ちや熱量はあるが、自分にとっては難しいところもあるということも言っていた。

【委員】

パワフルですが、何年か前までは卒塾生同士のネットワークづくりが課題だと言われていた時期もあったと思うが、今日話を聞いていると、ネットワークづくりが形成されていて、やはりSNSの力が大きいのかライングループを組んで、情報交換ができている。卒塾して熱が冷めないうちに地域活動をしつつ、その中で更にネットワークを広げる方は活動を広げているということで、センターの方からの感想などを伺いたい。

【事務局】

パワフルを担当して3年目で、変化ということでは、卒塾生は、最初は繋がりが弱い部分があったので、第4回の講座の午前中に卒塾生との交流ということで、パワフル交流会を設定して、今年度は講師と卒塾生という感じではなく、同じ地域の事を考える仲間という感じで交流会を設定して、卒塾生とのつながり、ネットワークの形成というのをどんどん強化していった熱量が冷めないように冷めないようにしていきたいと考えている。私が初めて担当した時より、卒塾

生との繋がりは強くなっていますし、グループラインも卒塾生のグループラインがあり、いろんな情報を共有しているので、どんどん青森の地域がよくなっていけばいいと感じている。

【委員】

何年か前は、卒塾生の方からネットワーク形成について社会教育センターの支援があればいいという話があったよう思うが、それが、パワフルが終わった方々の中でネットワーク形成が自走していくような方向に行きつつあるということで大変うれしい。

【委員】

パワフルについてですが、昨年度の実績を見ると参加者が17名、今年度は今のところは10名に満たないような感じですが、この17名でいいのかと考えたときにもっと多くの参加者があればいいと思うが、社会教育センターでやられている周知方法、どうやって受講生を集めるのか。当然魅力あるものを提案していても、横の繋がり、それから卒塾生との繋がりとかそこら辺が網羅されているとは思いますが、中々参加者の増員に繋がっていないという気がするがどう考えるか。

【事務局】

周知に関しては、チラシを配るとか、私、今年もテレビCMに出ていたんですが、そのようにして周知をおこなう。あとは、卒塾生とも当然つながりがある方に、地域活動に興味のある方いませんかと声掛けもしていますし、市町村の社会教育に関するところで、パワフルの説明をして、地域の人財を紹介してもらおうという形でやっている。毎年目標は20名としているが、どんどん地域活動をする人が増えていけばいいが、根本的な基の人数が増えていなければどんどん減っていくので、そこは課題である。人財の掘り出しや、周知を行っているが、なかなか届かないということも現状ではある。

《案件（2）③④について》

【委員】

キャリア教育推進事業（以下「キャリア教育」という。）に関して、職業人講師を招いて16職種とかありますけれども、どのような基準でどのように依頼しているのか。

【事務局】

職業人講師に関しては、中学生のアンケートを通してこういった職業人から話を聞きたいかある程度ジャンル分けして、実際依頼するに当たっては、プラットフォームの方とか、実際の会場校の地域学校協働活動コーディネーターの方と役割を分担して講師を依頼しているので、実際生徒の希望からはずれるような講師は選ばれていないという形になっている。

【委員】

イベントを開催して、それを実施するに当たってコーディネートが一番大変だと思っているがいかがか。

【事務局】

事業の振り返りの中で、やっていること自体は非常にいい取組だと評価していただいているが、学校で実施するに当たっては、事務的なこととか講師交渉とか非常に負担があると。このキャリア教育は、コミュニティスクールで配置されているコーディネーターの方、プラットフォームの方、先程紹介したデータベース、これらを活用してやっていくということ。あとは、PTAの方の力を借りていくと広がりがある取組になっていくのではないかという意見もあった。

【委員】

職種が多すぎなのではないかという気がするが、そのような機会は非常に大事だと思うので、やり方を簡素化しつつ機会を逃さないような改善をして、多くの人にチャンスが与えられればと思う。

【事務局】

はい。昨年度西北地区では、会場校になった鱒ヶ沢の教育委員会で引き続き実施する、それから、プラットフォームの方は、金木中学校で実施するということで、私たち事務局の手が離れてもある程度継続していておりますので、このようなことを狙って進めていきたいと思っている。また、依頼する講師ですが、今回のむつ地区は、生徒が80名ほどいた関係で、しかも対話集会という形式なので、多人数だと対話できないこともあり、講師の数が多いい形で実施したが、学級単位とかもう少し小さい単位でやるのであれば、少ない数の講師でも十分同じような効果というのも期待できると考える。

【委員】

青森市内でも中学校で職業講話をやられていると思う。私も依頼されたことがあるが、それとは違うのか。

【事務局】

いわゆる一般的な職業講話で、生徒を一堂に集めて講師が話すという形であれば、講師は一人でも十分成り立つし、その仕事に関して非常に詳しい講話を聞くことができると思う。

【委員】

青森市内の多くの中学校で職業講話を実施している。本校の場合は、1時間で、1職種30分位の時間で、2職種の話を聞けるという設定で実施している。講師は知り合いに依頼することも含め、プラットフォームにお願いする形で紹介してもらっている。ですから1回の職業講話で、講師が十数名来校し、生徒は2職種聞くことができるという方法で実施している。

【委員】

私が学校現場にいた際は、学校、地区の卒業生も含め、地区の方々で活躍している方、或いは地区から出て行った方でも頑張っている方を、お一人講師に来てもらいお話を聞くという形でやっていた。今の委員の説明は、いろんな方を呼んで、時間も30分に区切って、生徒が自分で聞きたいところのブースに行って何回か聞けるという形になる。

紹介になるが、地区の電気工事を行っている会社と東北電力の方が町に来て、是非子ども達に電気工事関係の仕事の紹介をしたいということで、話を伺った。三厩中学校を会場に、三厩小学校の児童も一緒に、家庭で電気のトラブルが起きた時の一連の流れを寸劇で子ども達にわかりやすく紹介した後、高所作業車に乗ったり、実際に器具等を使いながら工事作業を体験し、子ども達も非常に楽しんで、また、事業者さん達も大変喜んで帰って行ったということがあった。そのような体験を伴う形も必要でしょうし、講師の方が来られてお話をするという形も有効でしょうし、進路に迷っている子ども達にとってはすごくいいと思った。これまでは、高校生を対象に実施してきたが、それでは遅いということで、小・中学校で実施するというケースもあった。ただ、学校の方で講師がなかなか見つからないという点ではこのような県のサポートは有効だと思う。

【委員】

キッズハローワークや小学校から大学生までのキャリア教育を含め、学生団体の活動支援などを行っているが、いろんな考えがあるんだとお話を伺っていた。キャリア教育の目当て、目的、目標をどこに置くのかということにより、見せていくものが違うと思っている。アンケートなどでなりたい職業を見ると、例えば、ユーチューバーとかお菓子屋さんとかいろいろあるが、一番比率が高いのは「わからない」である。子ども達はわからないと思う。または、津軽地域

の子どもと南部地域の子どもでは、日頃自分の身の周りにある仕事が変わっていたりする。その時、子ども達にどうなって欲しいのかと考えた時に、知らない世界があると知って欲しいし、自分たちには未知のものがたくさんあるという事を伝えていくというのも、学校や地域でしかできないのではないかと考えているので、例えば中学生からのアンケートをもとにした職業講話だと知っているものしかそこにはない。そこで数が多いというのも大事だが、3年間でいくつやるかという計算だと、1回数は少なくてもいいし、小さい生徒規模の地域であれば、中高とか小中とか、小4から中3までの6年間をかけて職業教育を継続してやっていくということで、根付いていく事にも繋がっていくのではないかと考える。私も職業講話でいろんな所に行くが、実際に働くって楽しいし、自分の仕事が誰かの役にたっていることを伝える、キラキラした明かるいことを伝えていくためには、お話もそうですし、体験を伴った経験を積み重ねていくことが大事なのかなと思う。また、その自走という所を考えると、1回ですごく大変なことをやろうとすると無理かなと、気持ちが引いてしまうと思うが、何かやりやすい形で継続していく事が大事だと伝えていくと、各地域で続けていく方法を考えていくことができるのではないかなと思う。

《案件（2）⑤について》

【委員】

私自身家庭教育に関わっているが、対象になる親御さんに家庭教育をどのように周知していくか、事業をどうやって進めていくかというのは模索中である。やっと学校のまちコミで周知してもらえようになったが、それでもやはり見ている方は限られている。家庭教育は大切だと思っているが、気付かせる事がとても難しいと感じている。とてもいい事業をたくさん実施しているが、いつも問題になるのが周知方法、参加者数、そして継続ということで、どのように継続に繋がられるか、結果や課題を分析しながら進めていかなければならないということが、とても大事だけれども難しく、また、自分自身の課題でもあると感じている。

【委員】

最初、大学生とカタルというのを聞いた時にそれを地域に発信したところ、中学生が高校生と色々なお話をする、自分の体験談や考え方をいろんな業種の方を学校に呼んできてお話をさせてもらおうというようなことはすごくいいことだと思う。一回外に出ても地域に戻って欲しい、地域を愛して欲しいという思いで子ども達に発信しているところもある。とりとめのない話をしたが、地域

を知ることや幅広いことを子ども達に考えて欲しいなという思いがあるので、ここで勉強させていただいたことをどのようなことが地域にあうかということを試行錯誤しながら伝えていきたい。